

小生が東大に在任していた当時は、吉田健介さんがローマから東京へ帰られたときは、東大の本郷に滞在されるのが常であった。本郷では、ローマでの学生との仕事に関してよくセミナー等で話をしてもらった。なによりも吉田さんが来られる楽しみは、ヨーロッパとかアメリカの最近の話題（ゴシップも含めて）を、おもしろおかしく伝えてくれるのが何よりの楽しみであった。たとえば、最近では **string** が少し行きづまっていて **Witten** は何をやっているとか、 **string** に対して最近では興味を失っているようだとか、そういう類の情報であった。**String** を一生懸命やっている人なら少し気になるかも知れないような話題でも、小生には非常に楽しい情報であった。本当に、吉田さんは最新の情報に詳しくあった。また、ローマへ帰られた時には、非常に丁寧な礼状を兼ねたヨーロッパの物事情を書いた手紙を送ってくれるのが常であった。

本郷ではよく昼食を一緒にしたが、あるとき竜岡門の近くの外人用宿舎の食堂で昼食をして研究室に帰るときに、吉田さんは突然非常にきれいなチョウが飛んでいるのを教えてくれた。深い藍色から黒に近い羽根の色をしたチョウで、こんなチョウが本郷のキャンパスにいるとは小生は全然気付かなかった。吉田さんはこのチョウは非常に特殊で、楠のあるところで多く見かけるのだと教えてくれた。実際、吉田さんの指さす方向には楠があった。小生は、キャンパスにどのような木が生えているかも普段は気にしなかったが、楠がキャンパスに生えていてすばらしくきれいなチョウが飛んでいるのを知って感動した。以前から、吉田さんはチョウの標本を集めるのが好き（あるいはセミプロ）だとは聞いていたし、あるとき日本へ帰られたときに北大の河本さんに誘われて北海道へチョウの採集に出かけ山の中で足を滑らせて軽いけがをしたと言っていたのを覚えていたが、実際に東京のど真ん中にこのような珍しいチョウが飛びまわっているのを教えてもらって、さすがはチョウの専門家だと感心した。

小生が2004年の春に東大を退官する直前に、ヨーロッパへ3週間程度の旅行に出かけた。ミュンヘン、ウィーンそしてローマという順に回った。研究所とか大学を訪問し、セミナーをしたり以前からの共同研究者であるがまだ会ったことの無い人を訪問するのが目的であった。このときは、ワイフも一緒であった。ミュンヘンでは **Max Planck** 研究所に滞在したが、ミュンヘン郊外のお城での小さな研究会に当時ミュンヘンに滞在しておられた久保治輔さんの勧めで参加した。非常に寒い時であったがその後ウィーンへ行って、かつて論文と一緒に書いたが直接会ったことがなかった **Rebhan** 氏を訪問しセミナーをした

りした。もちろん、ベートーベンゆかりの場所等も訪問した。

さて、最後のローマへ着いたのは、2月の終わりから3月の初めだったように思う。少し寒さが和らいできていた。まずローマの中央駅の近くのホテルを日本を出る前にインターネットで予約して行った。しかし、吉田さんは、吉田さんのイタリア人の親戚の人がトレビの泉の近くでもっと良い場所にアパートを持っていて今空いているので、そこに短期間滞在したらどうかと言ってくれてそちらへ移った。このアパートは中央駅に近いローマ大学からは少し離れているが、ローマの観光には非常に便利ではあった。このようにして、ワイフはローマ見物小生はローマ大学へ地下鉄で通うということ、短期間ではあったがすることになった。ローマ大学では、**Massimo Testa** 氏が格子上の場の理論に関して小生と関係した研究をしていたので議論したり **seminar** もした。吉田さんの学生さんと物理の議論をしたり、昼食時には吉田さんの同僚たちと一緒に出かけた。大学の居室は全て塞がっていたが、たまたま **Cabibbo** 教授が **CERN** へ出かけていて、その部屋を使ってよいということで使わせてもらって快適であった。

吉田さんがローマのご自宅で御馳走するといってくださいだったが、あいにく直前に奥様が手に怪我をされた。その代りということで、**Testa** 氏のお宅で、吉田夫妻とわれわれ夫婦が招かれ夕食をごちそうになった。ローマの町中のアパートの2つの階を占める豪華な文字どおりのマンションで御馳走になった。このときは **Maiani** 教授も夕食に招かれていたが、直前になってアメリカへ出かけられなかった。いずれにしても、東京ではわれわれはむさくるしい掘っ立て小屋に住んでいるために吉田さんをお招きできなかったのに、ローマでは歓待していただいて大いに恐縮した。またローマを発つ直前には、吉田さんの奥様の関係の親戚であり、すでに述べたトレビの泉の近くのアパートの持ち主であるペルージャ大学の素粒子論教授 **G. Immirzi** 氏ご夫妻が、われわれが払った申し訳程度の家賃があまっているというので吉田さんご夫妻とわれわれ2人をレストランに招待して御馳走してくれた。このように、ごく短いローマの滞在ではあったがずいぶんといろいろなことを経験することになった。

吉田さんとは、去る8月2日に慈恵医大の病室に、われわれ夫婦でお見舞いしたのが最後となった。そのとき吉田さんは、現在ローマで学生が博士論文を書いており、この研究を仕上げさせたいと学問への情熱を語ってくれた。今になって考えると、吉田さんは、理論物理のような過酷な競争の世界へ来られるよりは外交官にでもなっておられた方が、より優雅な生活を楽しまれたのではな

いかと思ったりしている。もっとも、これは小生のように常に“吉田茂の孫”として吉田さんを意識していた者の考えることで、吉田さんご自身はそういう人生を故意に避けて学問の道を選ばれたのではないかと思ったりもしている。